

絵本に描写された「男らしさ・女らしさ」

坂西友秀*・大澤広子**

I. 問題・目的

絵本の普及には目を見張るものがある。日本子どもの本研究会(1983)の調べでは、年間1,000冊近くの新刊書が発行されている。この数は、子ども向けの本の約1/3にあたり、いかに絵本が広くゆきわたっているかを示すものである。同研究会によれば、「絵本とは、絵を主体とし、絵だけまたは絵と文で構成された出版物」であり、さらに次の特徴を備えている。① 絵本における絵と文の関係は融合調和していること。② 一冊が一つのテーマで統一され、絵を見ていくだけでもストーリーが把握できること。③ しかし、図鑑・画集・劇画・漫画とは区別して考えられること。

さて、このように広範に絵本が受け入れられるのは、絵本そのものの次のような諸性質に負うところが大きいと考えられる。例えば、ことばや文字を知らない子どもでも容易に理解し、楽しむことができること、ことばや文字を習得させる教材となること、あるいは既知のことは当然ながら未経験・未知の事柄に関するイメージや知識を提供することができること、また視覚的に訴えることで創造的な世界を膨らませる契機となること、等である。

さらに、井原(1985)は、子どもが発達していく過程で、言い換えれば母親から心理的に離乳し独立していく過程で、安心して依存できる母親の代理として(移行対象と呼んでいる)、心理的・精神的に絵本のイメージの世界と強く係

る場合があることを指摘している。ぬいぐるみやハンカチといった具体的な移行対象から、しだいに絵本というイメージの世界へ対象を移していくのである。この観点からすると、絵本は子どもの発達過程において、心理的な安定、心のよりどころを与えてくれる重要な役割を担っていることになるのである。

このように、独特の意義・役割を持つ絵本であるが、その内容や普及の仕方・利用のされ方については、すでに戦前から研究されてきている。例えば、牛島・矢部(1943)の調査研究では、「絵本が大好き」な子どもの割合は5~6割となっており(4~5歳:60.2%,6~7歳:56.0%),当時においても根強い人気のあったことが示されている。また、一方では、1938年に内務省が、「不良」絵本を浄化する動きを開始し(資料1)、他方では文部省が児童読み物の推薦を開始している。これらの動きは、絵本の子どもの与える影響の大きさを重視し、製作者に対して、題材や内容に関わって一定の方向づけをしていたことを示すものである。そこで、絵本は、「年齢ニ衣リソノ教化及用語ノ程度ヲ考慮スルコト」、「絵ハ極メテ健全ナルモノタルコト」とし、幼児・児童にできるだけ理解しやすくなるよう、工夫して作られるようになるのである。絵本の持つ教育的効果・役割が強く意識されればされるほど、絵本の題材・内容の選定は重要なものになってくるし、それらが読者である子どもの心理的・精神的発達に応じた理解しやすいものであることが一層強く求められることになるのである。

それぞれの絵本の担う教育的役割の大小はともかく、著者ないしは製作者が、絵本を通じて何かを伝えようと意図するならば、そこで取り

* 埼玉大学教育学部教育心理学科

** 中野区立桃ヶ丘児童館

上げられる題材・内容には、多かれ少なかれその時代のものの見方・考え方、社会的風俗、生活様式・状態等が反映し、著者の目を通して描き出されることになる。たとえ、題材・内容が昔話・物語・日常生活・乗り物・動植物など、さまざまな範囲に及ぶとしても、基本的にはこのことがあてはまる。それらが絵として描写されることから、具体的・視覚的にそれぞれの時代の特徴を理解し、社会の実情を垣間見る重要な手がかりを得ることができるのである。このことは絵本に限定されるものではなく、例えば、絵画に表現される子ども像が時代の変遷に伴ってどのように変化するのか、あるいはそこに描かれた人々の生活がどのようなものであるのかを跡づけることによって、それぞれの時代の間観・子ども観や世相・風俗を知る手がかりを得ることができるのである（P. Arie's, 1960: 清水, 1986）。

庶民の間に浸透し、時代状況を鋭く反映しているものの好例として紙芝居がある。紙芝居そのものは、絵本と区別して考えられるが、絵を主体としている点で類似している面がある。その始まりは、関東大震災（1923年）後であるといわれる。現在のようにテレビ・映画等の映像文化が隆盛ではなかった当時、かなりの宣伝力、「教育力」を持っていたと考えられる。特に昭和10年代に入ってから、日本紙芝居協会が設立され（1938年）、軍国主義・国粹主義を背景に戦意昂揚を図る子ども向けの紙芝居が大量に製作され、普及されるに至った。社会状況が如実に反映して、題材・内容が選定されることを示す典型的な例である（桜本・今野, 1985）。

こうした事情は絵本についても同様であり、軍事（陸海軍、大東亜戦争等）、伝記（ヒットラー、乃木大将等）を内容とした「教育的」なものが当時幼児、特に男児に広く読まれていたのである（例えば、読んでいる本全体に占める割合を見ると、軍事：4～5歳男子15.6%、伝記6～7歳男子40.6%）。一方、女児では、「お手伝い」など生活に係る絵本が盛んに読まれ（6～7歳では絵本の52%にものぼっている）、軍事・伝記ものはほとんど読まれていない。男児に比べ女児の

特徴的な点である（牛島・矢部, 1943）。当時の男子は、軍人としての活躍が期待され、「男らしさ」が強く求められ、女子は大和撫子として、良妻賢母として銃後の生活を守ることが強く求められていた。親は、当時の社会の中で男子・女子それぞれに期待される像に沿った絵本を選んで与えていたことを示すものである。それと同時に、男女の社会的役割の違いが絵本の題材・内容に強く反映していたと見ることができよう。

このように、絵本には、それぞれの時代の生活様式、慣習、社会環境、行動様式、人間観、思考様式、服装、職業、仕事の様子、交通機関、使われる言葉などさまざまな面が描写される。その内容を知ることによって、その時代の風俗やその社会・文化の中で共有されている人間観、子ども観をある程度知ることができる。本研究では、現在、幼児・児童に最もよく利用され、読まれている絵本を取り上げ、その内容を分析する。この分析を通じて、我々の住む社会が、子ども達にどのように特徴づけて描写され、提示されているのかを明らかにする。とりわけ、その時代の社会的な関係、地位をよく反映すると思われる男性と女性に焦点を当て、その描写のされ方を検討することにする。

II. 方 法

1. 絵本分析のための基礎資料の収集

現在幼児・児童によく読まれている絵本を選定するためには、絵本の利用件数が年間を通じて記録されている図書館の統計資料が好条件を備えていると考えた。そこで、子ども達自身の好む絵本が貸し出し件数にできるだけ反映するように、多様な子ども達が自由に入館、閲覧でき、自分の好みで借り出すことができる市民向けの図書館を資料収集の対象とした。そして、図書館の選定にあたってはできるだけ次の条件を満たすよう配慮した。① 特定の地域に限定せず、全国に散在させる。② 正確な貸し出し件数を知るために、コンピューターによる登録方式を採用していること。③ さまざまな子どもの

例 分析する絵本の選定手続き

順位	書名	尼崎	多賀城	日野	浦安	八広	登場館数*順位合計
26	ちいさなうさこちゃん	—	—	44	9	88	3 * 141
27	バーバパパのたんじょうび	19	—	—	57	67	3 * 143
28	バーバパパのはこぶね	74	—	8	—	72	3 * 154

多様な好みを幅広く反映させるだけの絵本がそろっていること(ここでは絵本の蔵書数が5,000冊以上であることをさす)。

以上の条件を考慮して、1987年9月下旬に、次の5館に1986年度の絵本の貸し出し件数リストに係る資料の提供を依頼した。①多賀城市立図書館(宮城県多賀城市:絵本の蔵書数³9,000冊)②浦安市立図書館(千葉県浦安市:絵本の蔵書数28,000冊)③墨田区立八広図書館(東京都墨田区:絵本の蔵書数11,500冊)④日野市立中央図書館(東京都日野市:絵本の蔵書数25,000冊)⑤尼崎市立図書館(兵庫県尼崎市:絵本の蔵書数5,000冊)

2. 分析対象絵本の選定

最も頻繁に借り出されている絵本を、子ども達が好んで読む絵本と仮定して(借り出すのは、母親・父親によってなされることがあり、幼児・児童だけに限定されるわけではないが、それらの絵本の大部分は幼児・児童に読まれていると考えられることから)、内容分析の対象とする。そこでまず、各館の貸し出し件数の多い順に100冊(ただし、多賀城市立図書館については35冊)ずつ、計435冊を取り出し、今後の分析対象となる絵本を選定するための基本的な絵本とした。

次に、5館の貸し出し件数を総合的に考慮して、最も頻繁に読まれている絵本を特定するために、再度上記の435冊の順位づけをした。順位づけに際しては、次の2つの基準にしたがった。①5館の中で登場回数(登場館数)の多い絵本を上位とする。②それぞれの絵本の各図

書館における順位を5館について合計し、これを総合順位とする。数値の小さいものほど貸し出し件数が多いことを示す。なお、①が同順位の場合には②にしたがって決定する。

例えば、(例)で26位~28位の絵本は、いずれも3館で登場しており、登場館数は同じである。しかし、各絵本の総合順位は、「ちいさなうさこちゃん」では、{日野(44)+浦安(9)+八広(88)}=141、「バーバパパのたんじょうび」では、{尼崎(19)+浦安(57)+八広(67)}=143、「バーバパパのはこぶね」では、{尼崎(74)+日野(8)+八広(72)}=154であり、順位は(例)のようになる。以後の分析では、同様の手続きにより順位づけした絵本の中から上位100冊をその対象とする(資料2)。

3. 選定した絵本の調査

調査期日 1987年10月下旬から11月中旬

調査方法 次の項目に沿ってそれぞれの絵本の内容を調べ、必要事項を記入した資料カードを各絵本ごとに作成した。

調査項目

① 絵本について: ①著者・画家・訳者 ②出版社 ③シリーズ名 ④発行年 ⑤絵本の大きさ(縦の長さ・横の長さ) ⑥絵本の属性・ジャンルの分類

② 主人公・その他の登場人物について: ①名前 ②性別(判断できない場合は不明とする) ③大人か子どもか(判断できない場合は不明とする) ④種類(人間・動物・その他、なお動物の場合は動物名も記入する) ⑤その他(服装およびその色・遊び・おもちゃ・行動や役割・登場者に関して用いられる形容詞・持ち物や装飾品・身体的な表現・ことば(一人称、二人称、文の語尾))

³ 絵本は、児童書の中に入れて分類されているが、絵本とそれ以外の児童書の分類上の境界が必ずしも明確ではない。そのため、ここに記載される絵本の蔵書数は、各図書館調べによる1989年3月現在の概数である。

III. 結 果

資料カードをもとに絵本の描写に表われた特徴的な点を整理することにする。なお、分析は主に次の4つの柱に沿って行なうことにする。

I 人気のある絵本の一般的な特徴。II 主人公の描写の特徴。III 登場者一般の描写の特徴：ここでは主人公も含めた登場者全員を分析の対象とした。登場者は、「おとなの男」・「おとなの女」・「子どもの男」・「子どもの女」・「不明」の5種類に分類した。なお分析にあたっては前四者を対象とし、「不明」は除外した。集計にあたっては、各項目「例えば、服装・色・1単語・1文など」の記入データ1つにつき1点とする。さらに、当該項目の中で同じ種類のもの同士の点数を合計した。例えば「服装」項目を例にとると、そのうちの「ズボン」であれば「ズボン」のカテゴリーで、あるいは「スカート」であれば「スカート」のカテゴリーで、それぞれ絵本全体の点数を合計した。IV 作者と絵本の関係に見られる特徴。

1. 絵本の一般的な特徴

幼児・児童に最もよく読まれている絵本100点の一般的な特徴についてさまざま面から検討することにする。

1) 絵本の分類

絵本をその内容にしたがって、「物語絵本」・「科学絵本」・「知識絵本」に分類し、さらに物語絵本については、「神話・民話・昔話」・「現代創作」・「単純絵本」・「童話絵本」に細分した。なお、「単純絵本」・「童話絵本」・「科学絵本」・「知識絵本」は、概略次のように定義される。

① **単純絵本**：「ものの絵本」と「赤ちゃんの絵本」が含まれる。「ものの絵本」とは、文字や文を必要とせず、幼児が人間や動植物を初めとするさまざまな事物・対象を知るための手がかりを与える絵本である。薮内正幸絵「どうぶつのおやこ」などがそれにあたる。「赤ちゃん絵本」とは、赤ちゃんに与えるための絵本で、松谷みよ子文・瀬川康男絵の「いないいないば」など

表1 シリーズ絵本一覧

シリーズ	冊数
バーバパパ・ミニ絵本 <講談社>	11
講談社バーバパパのえほん	6
(「おぼけのバーバパパ」<偕成社>)	(1)
子どもがはじめてでであう絵本 <福音館書店>	18
ビーターラビットの絵本 <福音館書店>	10
<こどものとも>傑作集 <福音館書店>	12
こぐまちゃんえほん <こぐま社>	9
アンパンマン・ミニブックス <フレーベル館>	3
(アンパンマンのサンタクロース <フレーベル館>)	(1)
ノントンおそぼうよ <偕成社>	9
いやだいやだ・あーんあんの絵本 <福音館書店>	4
ちいさいえほん <偕成社>	2
岩波子どもの本	2
合 計 ※()の数字は抜く	86

がある。

② **童話絵本**：子どもを対象とする文学作品が絵本化されたもので、小川未明作の「赤いろうそくと人魚」などがあてはまる。

③ **科学絵本**：観察・実験等を扱い、科学の基本的な知識を与える絵本である。加古里子著の「かわ」などがある。

④ **知識絵本**：ひらがな・数字などを習得させることを目的とした育児絵本・教育絵本である。波多野勤子監修の「あいうえお」などがある。

なお、それぞれの物語絵本は、原作が日本のものである場合と外国のものである場合とで二分した。

絵本をそれぞれのカテゴリーに分類整理し、その内訳を見ると、「現代創作」が圧倒的に多く99冊となっている。原作は、日本49冊、外国50冊で、ほぼ同数である。他は、「神話・民話・昔話」(絵本 No. 88：おおきなかぶ)がわずか1冊のみである。「おおきなかぶ」は、日本人が脚色・

表2 登場者の種類による絵本の分類

		こどもだけ	おとなだけ	こどもとおとな	合計冊数	
動物	1種類	40 41 48 71 74 76 92 (7)	61 (1)	5 7 14 26 42 53 54 56 58 60 67 73 79 80 91 (15)	23	43
	2種類以上	2 10 12 39 45 72 75 77 86 95 (10)		6 31 34 36 55 57 69 70 83 90 (10)	20	
動物と人間	主人公が動物	35 51 (2)		16 18 20 24 44 52 66 78 84 85 (10)	12	18
	主人公が人間			38 64 87 88 94 (5)	5	
	どちらでもない			17 (1)	1	
人間		11 19 23 (3)		21 25 33 37 46 65 93 94 100 (9)	12	12
その他		15 (1)	43 49 81 99 (4)	1 3 4 8 9 13 22 27 28 29 30 32 47 50 59 62 63 68 82 89 97 98 (22)	27	27
合計冊数		23	5	72	100	

各カテゴリーの数字は、絵本のNo. (資料2)を表わす。

編集しているが、原作は有名なロシア民話であることから、「外国」に分類した。

2) 単純絵本とシリーズ絵本

よく読まれる絵本には、一連のシリーズものが多く含まれている点特徴的である。表1に示されるように、100点中シリーズものが86点も含まれている。

3) 絵本の年齢

初版が発行されてから1987年までの年数をその絵本の年齢とした。日本の絵本の平均年齢は13.5歳で、1960年代初期から現在まで比較的満遍無く発行されていることがわかる。一方、外国の絵本の平均年齢は15.7歳とやや長く、1950年代初期発行のものまで含まれている。

4) 登場者の種類による絵本の分類

登場者を種類(動物、動物と人間、人間、その他)と「おとな・子ども」の二つの基準で分類したものが表2である。まず、種類について見ると、動物のみ登場する絵本が全体の43%で、かなりの部分を占めている。これらの動物は擬人化され、その動物本来の生活をするのではなく、人間の生活をし、人間のような言動をする。図1は、人間同様にエプロンをし、テーブルについて食器を使いながら食事をする「くま」の例である。動物に次いで多いものは「その他」であり、全体の27%を占めている。「その他」には、動物や人間以外のもので、実在しないお化けなどが含まれる。

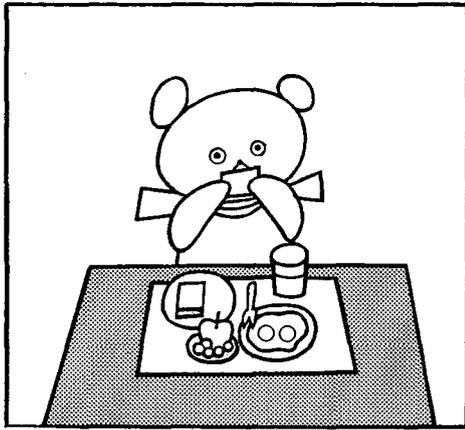


図1 擬人化された動物
(わかやまけん作「こぐまちゃんおはよう」より)

次に、登場者が子どもであるかおとなであるかに基づいて分類してみると、おとなと子ども双方の登場する絵本が最も多く、全体の72%で大部分を占めている。第2位には子どもだけ登場するものが23%で続いている。ここで、登場

者の大部分を占める動物について、さらにその種類を見たものが表3である。全部で30種類もの動物が登場していることがわかる。特に、うさぎ、ねこ、くま、などは頻繁に登場する動物である。

5) 絵本の大きさ

絵本の大きさは、縦の長さ×横の長さをかけ合わせて、面積で表わした。大型(500 cm²以上)の絵本はあまり人気がない。借り出されるものは、ほとんどが小型(300 cm²未満)か中型(300 cm²以上 500 cm²未満)に集中していることがわかる。また、形としては、正方形のもの(縦と横の長さの差が2 cm以内)が多かった。大きさと形の両面から見ると、小型で正方形のものが全体の1/3(35冊)を占め、中型で正方形のもの(21冊)、小型で長方形のもの(縦長:12冊)、中型で長方形のもの(横長:12冊)と続いている。それぞれ同じシリーズで同じ大きさという絵本が多く、小型で正方形のものは「子どもがはじめてであらう絵本」シリーズ(16

表3 登場する動物の種類とその度数

動物の種類	登場者	主人公	その他	計	動物の種類	登場者	主人公	その他	計
うさぎ		12	10	22	おおかみ			1	1
ねこ		16	4	20	やまね			1	1
くま		9	10	19	ペンギン			1	1
ねずみ		6	3	9	かば			1	1
いぬ		3	5	8	うま			1	1
ぶた			7	7	とら			1	1
たぬき			6	6	ぞう			1	1
ことり		1	4	5	ライオン			1	1
あひる		1	4	5	くじら			1	1
にわとり			4	4	さかな	1			1
さる		3	1	4	かに			1	1
かめ			2	2	かえる			1	1
オットセイ			2	2	ふくろう			1	1
りす		1		1	あほうどり			1	1
きつね			1	1	あおむし	1	1	1	1

表4 主人公の種類とその度数

	動物		人間	その他		不明	計
	ねこ(14)	うさぎ(12)		おぼけ(18)	アンパンマン(4)		
	くま(9)	ねずみ(6)		だるま(3)			
	いぬ(3)	さる(3)		くるま(2)			
	他						
計	55		17	27		1	100

表5 主人公の(種類)×(性別)×(おとな・子ども)のクロス表

主人公	男		女		男女		不明		その他 不明
	おとな	子ども	おとな	子ども	おとな	子ども	おとな	子ども	
動物	90	2 10	70	7 14	61			16 18	5 6
		12 24		20 26				58 72	31 40
		34 35		42 56				83	52 71
		36 39		57 66					79 85
		41 44		73 76					95
		45 48							
		51 53							
		54 55							
		60 67							
		69 74							
		75 77							
		78 80							
		84 86							
	91 92							(9)	
	(1)	(28)	(1)	(10)	(1)			(5)	
人間	88	38 46		11 21				19	37 94
	100	64 87		23 25					
		96		33 65					
				93					
	(2)	(5)		(7)				(1)	(2)
その他	1 3	13 15	62	32 98					81 99
	4 8	30 50							
	9 22	68 97							
	27 28								
	29 43								
	47 49								
	59 63								
	82 89								
	(6)	(1)	(2)					(2)	
なし									17 (1)

各カテゴリーの数字は絵本の No. (資料2) を表わす。

cm×16 cm), 中型で正方形のものでは「こぐまちゃんの絵本」シリーズ (19 cm×21 cm), 小型で縦長のものでは「ピーターラビットの絵本」シリーズ (14 cm×11 cm), 中型で横長のものでは「子どものとも」傑作集」シリーズ (19 cm×26 cm) などが特に目立った。

2. 主人公の描写の特徴

主人公がどのように描写されているのか3つの観点から順次見ていくことにする。

1) 男子と女子の割合

主人公の性別によって絵本を整理すると、大人と子どもを合わせた男女の割合は、男が58%

表6 男性と女性の役割・行動

	男		女	
親	だっこ おんぶ 肩ぐるま むちでうつ おしりをたたく	車をひく 遊びに連れて行く こどもを助ける こどものおむかえ	だっこ 手をつなぐ しかる しつけ ねかしつける お風呂に入れる	着がえさせる 見送る 薬をのませる ミルク作り おもちゃを買う 遊ぶ
家庭内	花に水をやる 窓をしめる 大工仕事 馬車の運転 市場へ買い物 家づくり 羊の毛をかる	舟づくり 新聞をよむ パイプをふかす 食べる ママに花をあげる 苗うえ	そうじ 買い物 食器洗い ごはんの支度	あみもの おやつ作り 動物の世話 裁縫
その他	鉄破をうつ ケーキを焼く たばこを買う 穴ほり	ごみあつめ はきそうじ パンクを直す 人助け	笑う 泣く 水くみ そうじ	ズボンを作る 花を頭につける モデルになる



それから、
それをと
らのほた
でやくと
ちよらど
とらのよう
なきいろ
いこんが
りしたい
ろになら
ました



くど、おき
どうをま
せてとて
もおいし
もおいし
そうなほ
かい得い
をわさら
にいっぱ
いやまも
りにつく
りました

図2 男性と女性の役割・行動
(へれん・ばんな一まん文 ふらんく・とびあす絵『ちびくろさんぼ』より)

(58冊), 女が21%(21冊)であり, 男性主人公が圧倒的に多いことがわかる。

2) おとなと子どもの割合

主人公がおとなであるか子どもであるかによって絵本を整理すると, おとなが全体の22%(22冊), こどもが64%(64冊)であり, 主人公の大半は子どもである。

3) 主人公の種類

主人公を, 「動物」・「人間」・「その他」に分け

て絵本を分類し整理したものが表4である。その内訳は, 動物が55%, 人間が17%, その他が27%であり, 動物の主人公が非常に多いことがわかる。動物をさらに詳しく見てみると, うさぎ, ねこ, くま, ねずみ, いぬ, さるが多く登場している。その他では, おばけ, アンパンマン, だるまちゃん, トラック, ローラーが登場している。なお, 表5は, 「主人公の種類」と「性別」と「おとな・子ども」を交差させてそれぞ

ふわふわさんは にわにでて
はなに おみずを やりました。
ね ひとつひとつ ちゃんと
おみずをかけて やっています。

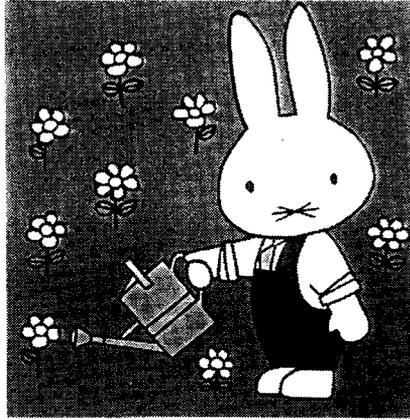


図3 男性と女性の役割・行動
(ディック・ブルーナ『ちいさなうさこちゃん』より)

ふわおくさんは おうちのしごと。
おへやのなかを よくはいて
きれいに おそうじ したあとで
まちへ おつかいにでかけます。

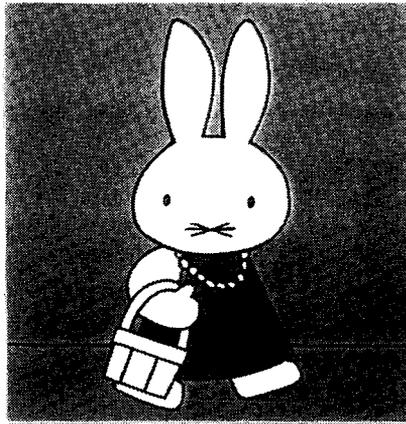


図4 男性と女性の役割・行動
(ディック・ブルーナ『ちいさなうさこちゃん』より)

れの絵本を整理したものである。

3. 登場者の描写の特徴

ここでは、主人公も含めて、「性別」と「おとな・子ども」の判断できる登場者すべてについて分析する。

1) 行動・役割の特徴

ここではまず、おとなと子どもに分けてから分析することにする。

① おとな

登場者が親としてとる行動や役割（育児行動）、家庭内での行動や役割、その他の行動や役

割を、それぞれ男女別に整理したものが表6である。まず、親としての行動や役割に関しては、男性では、だっこ、おんぶ、肩ぐるまなどがあげられ、女性では、だっこ、手をつなぐなどがあげられる。また、叱り方では、男性はむちで打ったり、お尻を叩いたりするのに対して、女性では口で叱るだけであるなど特徴的な違いが見られる。全体的に、男性には力強さないしは粗暴さを感じさせる行動が多く、対照的に女性には穏やかさを感じさせる行動が多くなっている。

さらに興味深い点は、子どもの世話に関して

表7 男性と女性の職業とその度数

職業	男 女		職業	男 女	
	男	女		男	女
運転手	13		アイスクリームや	1	
お百姓	3	2	コックさん	1	
消防士	4		エレベーター係	1	
おまわりさん	3		映画のスタッフ	1	
動物園の飼育係	3		テレビ局の人	1	
医 者	2		郵便や	1	
教 師	1	1	スタンドマン	1	
幼稚園の先生		3	窓ふきの人	1	
ペンキや	1		工事現場の人	1	
おそばや	1		動物園長	1	
クリーニングや	1		消防署長	1	
魚 や	1		ホテルの支配人	1	
パンや	1		社 長	1	
おかしや		1	看護婦		1
牛乳や	1		主 婦		(34)
			計	48	8 (34)

である。男性では、リヤカーを引く、遊びに連れていく、子どもを助けるなど、戸外での行動が多い。それに対して、女性では、寝かす、お風呂に入れる、着替えさせる、薬を飲ませる、ミルクを飲ませるなど、室内でのこまごまとした日常的な世話が中心になっているのである。

次に家庭内の行動を見てみよう。家庭内では、男性では、新聞を読む、パイプをふかすなど余裕のある行動が多い。一方、女性では、掃除、買い物、食事のしたく、裁縫など忙しい行動が多い。図2は、お母さんが料理をしている傍らでお父さんはパイプをふかしている情景を描いたものである。それ以外の面でも、男性は、花の水やり、窓閉め、大工仕事などが多く、家事の中心的なことはやっていない。図3・4は、お父さんとお母さんの仕事を前後のページを使って対照的に描写している一例である。

最後に、職業について見てみると(表7)、ほとんどの場合職業を持っているのは男性であ

る。それに対して、女性では、「お百姓」・「教師」・「幼稚園の先生」・「牛乳屋」・「看護婦」に就いている人が、わずかに8人いるだけである。他は圧倒的に主婦が多いのである。絵本の中では、「男は外、女は内」の役割観が鮮明に描き出されているといえよう。

② 子ども

子どもの行動や役割について、男女別に、「手伝い」・「～づくり、発明」・「屋外での活動」・「室内活動」・「その他」に分けて整理したものが表8である。まず手伝いについて見ると、男の子では、布団を干す、木を切る、たきぎを割る、板を運ぶなどの力仕事や戸外の仕事が多くなっている。それに対して、女の子では、食器洗い、買い物、おやつを運ぶなどの家事に関わるものや家の中の仕事が多くなっている。男子と女子の役割分担を示す描写が多いことがわかる。

物づくりや発明に関わる描写についても同様に、男の子と女の子で違いが認められる。全体的に男の子は、時計や機械や車などの機械的なものをつくることが多い。一方、女子は、洋服づくり、レース編み、くび飾りづくりなどの衣服・装飾品をつくるが多くなっている。男子は、いわゆる「技術的」に、女子は、いわゆる「家庭的」に描写される傾向が強いといえよう。

最後に、屋内外での活動について見てみよう。男の子では、マラソン、暴れる、泳ぐ、バーベル上げ、冒険に出かけるなど、戸外でスポーツや活発な活動を楽しむ場面が多い。対照的に、女子が戸外で活動する場面は少なく、お花畑で遊ぶくらいである。しかし、それを補うかのように、歌をうたう、本を書く、楽器をひく、踊る。本を読む、絵を描くなどの室内の活動がかなり多くなっている。ここにも男子と女子の描写の違いがはっきりと表われている。

2) 男女の服装の特徴

男性と女性の服装はどのように特徴づけられて描写されているのであろうか。以下の4つの点から分析してみよう。

① 衣服

表9は、男女別に衣服の種類毎の該当登場者

表8 男子と女子の役割・行動

	男		女	
手伝い	布団をほす 木を切る 花に水をやる 動物の世話	たきぎ割り 板はこび たるはこび	食器洗い 買いもの 花に水をやる 動物の世話	まきをくべる おやつを選ぶ 乳しぼり
～づくり 発 明	時計づくり 船づくり 機械づくり 水くみの方法発案	カステラづくり 車づくり つぼづくり あみもの	洋服づくり ホットケーキづくり くびかざりづくり あみもの	ぬいもの レースあみ 小鳥の家づくり 船づくり
屋外活動	マラソン さんぼ あばれる 泳ぐ とび込む	バーベルあげ 走る 体操 動物園に行く 冒険にでかける	お花畑をさんぼ	動物園に行く
室内活動	絵をかく	ドラムをたたく	歌をうたう タイプライターをうつ 本をかく 楽器（バイオリン、ピアノ）をひく	おどる 本を読む 絵をかく
その他	畑のものを盗む かぎを盗んで逃走 卵の親さがし 卵をあためる きんぎょ、ありに水をかける ガムをふくらます けんか 人まね お風呂にはいる	あかんペー ひっかく いたずらがき 女の子を救ける つまみぐい 泣く ごはんを食べる 顔を洗う	ちょうちょにうっとりする 花占い こわがる	お化粧 泣く

の度数を整理したものである。表から、ズボン・制服（仕事着）・スーツ・マント・Tシャツなどは男性に、一方、ワンピース・エプロン・スカート・ドレス、ショールなどは女性に特有のものとして用いられていることがわかる。いわゆる「男らしさ」と「女らしさ」が、服装によって典型化されて、はっきりと表現されているといえる。さらに、男性は帽子を愛用する傾向がある。また、おとなの男性では、制服（仕事着）、スーツなどの職業に結びつく服装が目立つ。例えば、制服は、警察官や消防士に、マントはスーパーマンや泥棒が着用している。これらの帽子・制服・スーツ・マントなどは、いずれも戸外で着用するものであり、すでに行動・役割の項で触れたように、男性は社会的場面における活動に従事する人として描写されているのである。それに対して、おとなの女性では、エプロンが母親のシンボルであるかのように、頻繁に用いら

れている。例えば、図5を見ると、最上段にはエプロンをした婦人がいる。その前の男性はスーツを着用しており、対照的である。そのほかに、帽子を投げ上げている男の子が二人いる。女の子はいずれもスカートをはいている。日常、エプロンは、家の中で家事に関わって使用されるものであることから、おとなの女性の多くは主婦として描かれていることがわかる。

このように、全般的に、絵本の服装表現においては、いわゆる「男らしさ」・「女らしさ」が典型化されており、暗に「男は外、女は内」という見方が示めされているといえよう。

② 衣服の色

表10は男女別におとなと子どもの衣服の色を整理したものである。表からわかるように、全体的に見ると、男性では、青・黒・赤・黄・白・茶・緑の順になっており、比較的地味な色の衣服が多い。しかし、興味深いことに、おとなと

表9 男女別に見た衣服の種類とその度数

男	おとな	こども	計	女	おとな	こども	計
ズボン	26	15	41	ワンピース	24	28	52
ぼうし	16	10	26	エプロン	14	4	18
上着	6	13	19	スカート	6	10	16
制服(仕事着)	16		16	ドレス	9	1	10
セーター	5	10	15	シャツ	3	5	8
シャツ	8	1	9	ぼうし	3	4	7
スーツ	9		9	セーター	1	5	6
マント	5	2	7	ショール	4		4
Tシャツ	1	5	6	上着	2		2
てぶくろ	1	3	4	タンクトップ	1		1
チョッキ	2		2	てぶくろ		1	1
水着		2	2	マフラー		1	1
ジャンパー	1		1	コート		1	1
コート	1		1	ブラウス		1	1
エプロン		1	1	パジャマ		1	1
マフラー		1	1				

表10 男女別に見た衣服の色とその度数

男	おとな	こども	計	%	女	おとな	こども	計	%
青	15	18	33	23	白	22	14	36	26
黒	16	3	19	13	赤	7	18	25	18
赤	8	8	16	11	青	8	15	23	17
黄	5	11	16	11	ピンク	5	6	11	8
白	4	12	16	11	黄	3	7	10	7
茶	9	5	14	10	茶	3	2	5	4
緑	4	5	9	7	きみどり	3	2	5	4
紫	5	1	6	4	水色	5		5	4
水色		4	4	3	オレンジ	1	3	4	3
グレー	3	1	4	3	紫	3	1	4	3
きみどり	1	2	3	2	黒	3		3	2
オレンジ		2	2	2	花から		3	3	2
計			142	100	緑			2	1
					グレー	1	1	2	1
					計			138	100

ぶだいに はみまで とんで きました。
 こどもたちは 会場よろこびです。



図5 男性・男の子と女性・女の子の衣服
 (アネット・チゾン, タラス・テイラー作『バーバーパパのだいサーカス』より)

表11 男女別に見た持ち物・装飾品とその度数

男	おとな		こども	計	女	おとな		こども	計
	父親	その他				母親	その他		
ネクタイ	7	1		8	花かざり	2	3	19	24
パイプ	5	1		6	ネックレス	2	1	11	14
めがね	2	4		6	リボン	1		8	9
タバコ	2	2		4	めがね	1		4	5
スコップ	1	1		2	買い物かご	2	2	1	5
かさ			2	2	スカーフ	1		2	3
ステッキ	1			1	かご		1	2	3
むち	1			1	ペンダント		2		2
つえ		1		1	ネックチーフ	1			1
サングラス		1		1	ハンドバック		1		1
かぼん			1	1	サングラス		1		1
リュック			1	1	ポシェット		1		1
水とう			1	1	かぼん			1	1
水中めがね			1	1	おたま	1			1
					さいふ		1		1
					鋤		1		1

表12 男の子と女の子のおもちゃとその度数

男		女	
くるま(自動車・電車 etc.)	7	ぬいぐるみ	5
ボール	7	ボール	3
ヨット・船	4	人形	2
ぬいぐるみ	4	スコップ	1
かえる・あひる・さかな・くじら	4	バケツ	1
風船	3	絵本	1
たいこ・ラッパ	3	風船	1
つみき	1		
スコップ	1		
水でっぽう	1		
ひこうき	1		
ジョーロ	1		
ピストル	1		
バケツ	1		
絵本	1		

子どもを比較すると、黒の衣服はおとなに多く、逆に子どもに少なくなっている。子どもには、黄や白など明るい色が多用されている。

一方、女性の衣服を見ると、男性とは対照的に、白・赤・青・ピンク・黄など全体的に明るく華やかに配色されている。なかでも、ピンクや花柄は女性特有のものとして登場している。こうした傾向は、特に子どもに強く表れている。性別を問わず、おとなに比べて子どもの服装は、幅広くさまざまな色彩で表現されている点も1つの特徴である。

3) 持ち物や遊びの特徴

① 持ち物・装飾品

表11は、男女別に登場者の持ち物や装飾品を整理したものである。ネクタイ・パイプ・たばこはおとなの男性、特に父親を象徴するものとして頻繁に用いられている。女性では、花かざり・ネックレス・リボンなどの装飾品が多くなっている。装飾品にも、「男らしさ」・「女らしさ」が、はっきりと表現されている。

表13 男の子と女の子の遊びとその度数

男		女	
おにごっこ	3	スケート	3
ブランコ	3	雪だるまづくり	3
木のぼり	2	水あそび	2
山づくり	2	ゲーム	2
でんしゃごっこ(運転手)	2	そりすべり	2
雪だるまづくり	2	絵かき	1
ジェット機ごっこ	1	組み紙細工	1
水たまりをとびこえる	1	砂山作り	1
インディアンごっこ	1	穴ほり	1
虫とり	1	貝拾い	1
木の実とり	1	でんしゃごっこ(客)	1
どんぐり拾い	1	はっぱのポート	1
三輪車	1	木の実とり	1
自転車	1	花つみ	1
スケートボード	1		
ころげ回る	1		
雪合戦	1		
わなげ	1		
穴ほり	1		
水あそび	1		
はっぱのポート	1		
スキー	1		
スケート	1		
花つみ	1		

② おもちゃ

おもちゃは、子どもの遊び道具・愛用品であることから、集計は子どもだけを対照とした(表12)。男の子は、車・ボール・ヨット・船などで遊ぶことが多い。乗り物が比較的多く登場しているところに特徴がある。また、人形では、かえる・魚・あひるなどの動物のものが多かった。水鉄砲やピストルなどの攻撃的なおもちゃは、男の子のものとしてとらえられていることがわかる。

表 14 男女別に見た身体的特徴とその度数

男	おとな	こども	計	女	おとな	こども	計
ひげ	29		29	まつげ	7	11	18
むなげ	1		1	むね	1		1
はげ	1		1	バーマ	1		1
ひやけ	1		1	ほっぺが赤い		1	1
				みつあみ		1	1

おまは、バーバのたんじょうび。
バーバは、はりきって ケーキをつくらせています。

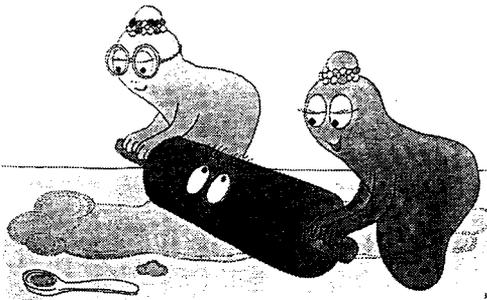


図 6 男女の身体的特徴
(アネット・チゾン、タラス・テイラー作『バーバのたんじょうび』より)

女の子では、ぬいぐるみ・ボール・人形の順になっているが、特徴的な点は、遊んでいる人形が「女の子」になっていることである。

③ 遊び

おもちゃの場合と同様に、子どもだけを対象に資料の集計をおこなった(表 13)。男の子では、鬼ごっこ・ブランコ・木のぼり・山づくりなど、すべて戸外の活動的な遊びばかりである。女の子でも、スケート・雪だるまづくり・水遊びなどの外遊びが多いが、同時に絵描き・組み紙細工等の室内遊び、静かな遊びがあげられているところに特色がある。

4) 身体的表現の特徴

表 14 は、男女別に身体表現の特徴を整理したものである。おとなの男性では、ひげが最も多く描かれている。おとなの女性では、まつげを長くし、強調して描写されるケースが多い。例えば、図 6 は女の子達がケーキを作っているところである。女の子のまつげは長いのに対して、ローラーに化けている男の子のまつげはない(まゆ毛はあるが)。まつ毛を強調する傾向は女の子の場合にもあてはまる。ひげは、男性に特有のものであるが、まゆ毛は両性に共通しているものである。それにもかかわらず、女性のシンボルとしてまつげが強調されている点は興味深い。

5) 形容詞・ことばに見られる特徴⁴

男女やおとなや子どもを形容する場合の特徴を整理したものが表 15 である。おとなの男性は、大きい・勇ましい・等のことばで、男の子は、元気な・いたずらな・行儀の悪い・なまいきな等のことばで形容されることが多い。一方、おとなの女性も、ものを大切にする・きれい好き・麗しい・優しいなどのことばで、女の子は、陽気な・おしゃれな・きれいな・かわいい・いい子などのことばで形容されている。男性・男の子は、強く・たくましく・活発な特性をもつものとして、女性・女の子は、優しく・おしとやかで・もの静かな特徴をもつものとして、それぞれ「男らしく」・「女らしく」描写されていることがわかる。

一人称ことばについては、男性は、「ぼく・おれ」を多く使用している。男の子は、「ぼく」がほとんどある。また、女性は、「わたし」のみを

⁴ No. 1, 4, 12, 28, 36, 43, 49, 68, 69, 77, 80 の各絵本は、ここでは(形容詞・ことば)分析していない。

表 15 男性・男の子と女性・女の子を修飾する形容詞

男・おんな	男・こども	女・おとな	女・こども
元気な	元気な	やかましい	陽気な
力もちな	力もちな	ものを大切にする	おしゃれな
親切な	強い	きれいすぎ	きれいな
大きい	いたずらな	うるわしい	かわいい
勇ましい	ぶさほうな	少し少さい	いいこ
ひどいいたずらな	行儀の悪い	やさしい	小さな
	礼儀をしらない		勉強家の
	なまいき		
	知りたがりやの		
	言うことをきかない		
	小さな		
	かわいい		
	黒い		
	かわいそうな		
	絵の得意な		
	星の好きな		
	やさしい		

用い、女の子は、「わたし・あたし」を多用している。二人称についてみると、男性は、「きみ・おまえ」を、男の子は、「～さん・～ちゃん」をよく使用している。女性では、「あなた」が多く、女の子は「～ちゃん」の使用が比較的多い。

次に、ことばの語尾について見てみよう。女性に比べ、男性に比較的多い語尾は、「た・る・だ」、「なあ」、「だよ・するよ」、「ぞ・だぞ」などである。逆に女性に多い語尾は、「ましよう」、「わ」、「の・なの」、などである。また、女の子と比べて、男の子では、「かな」、「だろう」、「だよ・するよ」、「ぞ・だぞ」などが比較的多く使われている。女の子では、「かしら」、「ましよう(よ)」などの使用頻度が高い。

ここでも、男性には比較的語気の強いことばが多く、对象的に、女性には語気の柔らかいことばが多く用いられていることがわかる。

4. 作者についての分析

① 作者の特徴

よく読まれている絵本の作者・画家の特徴を登場回数の多さで見よう。著者・画家共に、うさこちゃんの「ディック・ブルーナー」、バー

バーパバの「アネット・チゾン」、ピーターラビットの「ビアトリクス・ポーター」と上位3つは外国人が占めている。また、特徴的なことは、上位の作者ほど、文と絵の両方を一人で、もしくは夫婦(アネット・チゾン、タラス・ティーラー、おおともやすおみ・さちこ)で、作品を作っていることがわかる。なかがわりえことおおむら(やまわき)ゆりこは、姉妹であり、よくコンビを組んでいる作者である。このように、上位10位までが、文・絵を一人もしくは家族で創作し、作品にしているのである。

② 主人公と作者の関係

ここでは、作者・画家が絵本の中でどのようなストーリー・登場者を描き出しているのかを整理してみた。ディック・ブルーナーの作品では、登場者は「子ども」、とりわけ「女の子」に集中している。ビアトリクス・ポーターでは、「動物」の主人公ばかりであるが、「性別」、「おとな・子ども」については多様である。また、アネット・チゾン、タラス・ティーラーの作品では、「その他(バーバーファミリー)」だけ、わかやまけんでは、「動物の子ども(こぐまちゃん・しろくまちゃん)」だけ、おおともやすおみ・さ

ちこでも、「動物のこども(ノンタン)」だけ登場している。

著者の人数の男女比を見てみると、100人中男性61.5人、女性38.5人であり、約3:2の構成である(二人で著作した場合は一人を0.5人として計算した)。概して、著作者の性別にかかわらず、「男性」を主人公として描く傾向が強い。とりわけ、女性著者の場合、38.5人中31人が「男性」主人公を描いている。また、男性著者は、「動物」・「その他」を主人公とする傾向が強い。男性著者よりも女性著者の方が、「人間」を主人公とした作品が多い。最後に、画家については、男女の比率はほぼ2:1となっており、男性画家の方が多くなっている。

IV. 考 察

我々は、絵本にはその時代の風俗や社会の現実が象徴的に描き出されると仮定して本研究を進めてきた。すでに、絵本に描写される男女の役割・行動には次のような特徴のあることが明らかにされている(佐藤, 1980)。例えば、主人公には女性より男性の方がはるかに多いこと、男子は積極的・活発に、女子は消極的・穏健に描写されることが多いこと、母親は家事に忙しく働く姿で、父親はゆったりとくつろいだ姿で描かれることが多いこと、さらに大抵の場合女性は主婦として、男性は職業人として登場していることなどである。こうした諸特徴は、今回の分析結果にもそのままあてはまる。結果を整理してみると、絵本には実に多様なかたちで、人間観、子ども観、男女の性役割観などが一定の方向性をもって特徴的に描き出されていることがわかる。特に、男女の役割・行動に焦点を絞って分析してみた場合、両者の描写のされかたには一貫した違いが認められるのである。一例をあげると、男の子では、もっぱら戸外で活発に飛び回る遊びが中心になっているのに対して、女の子では人形相手の室内での静かな遊びも多く見られるのである。おとなに限らず、小さな子どもの役割・行動の描写において性差がはっきりと示されていることは、男女の性に応じた

定型的な役割期待が幼児期の非常に早い段階からあることを示すものとして興味深い結果である。また、こうした男女の特徴づけには、作者が日本人であるか、外国人であるかにかかわらずなく、共通部分が多いことにも注意する必要がある。性役割観は、日本と欧米の文化の違いを越えて、かなり重なり合っていることを示すからである。

さて、これらの結果は、絵本の世界に作者の考えるいわゆる「男らしさ」・「女らしさ」が反映していることの表われであるが、この傾向は絵本だけに留まるものではない。教科書もその一つの例である。教科書は、文化的遺産(社会の仕組みや男女の人間関係のあり方などの知識も含む)を系統的に配列する努力のもとに編集されるものである。そこに盛り込まれた内容は、義務化された学校教育を通じて、児童・生徒に伝達・実現され、彼らの心理・行動の両面に多大の影響を及ぼすことになる。その意味で、教科書でとりあげられている作品の内容がどのように構成されているのかが重要問題になる。福富・斉藤(1985)による小学校教科書(国語・社会・算数・家庭)の内容分析では、次のような特徴が見出されている。国語の教科書では、① 作者の男女比は約8:2であり、圧倒的に男性が多い。② 主人公の男女比も約8:2で、同様である。③ 伝記は男性のものがほとんどで、女性のはヘレン・ケラーとキューリー夫人の2編のみである。④ 登場人物は女性が多いが、その役割行動は母親としてのそれが多い(母親:父親=3:2)。男性は、職業人・社会人として描かれ、女性は主婦として描かれることが多い。また、社会の教科書でも同じ傾向が認められる。例えば、とりあげられる男性の職業は多種多様であるが、女性のそれは非常に限定されている(事務員・先生・給食づくりなど)。女性だけが就く職業として最も頻繁に登場するのは、「スーパーのレジ」である。この結果は、絵本の場合と非常に似通っている。男性は、社会の中で中心的な役割を果たし、それに対して女性はもっぱら家事労働に従事するか、社会の中で補助的ないしは一時的な役割を担うものとし

て描かれているのである。

ところで、一般に性差が論じられる場合、大別して2つの面があると考えられる。1つは、生物学的ないしは生理的・身体的な違いに基づくものであり、他の1つはそれらとは無縁の人為的に作り出された社会・文化的な性差と呼べるものである。後者は前者と複雑に結びついて男女の役割や行動を規定し、さまざまな制約を課していることが多い。とりわけ、女性の場合には、「女だから」・「女性は～だから」と、職業や活動やことばづかいなどで強い制約を受けている。もちろん、こうした制約が、女性を生理的な特徴より生ずる不利益や社会的差別（例えば出産に伴う退職）などから保護し、男女の対等平等な関係を保証する限りでは支持されるべきものである。しかし、歴史的に見ると、女性は弱者で劣等なものとして見られることが多かった。婦人が選挙権を獲得し、社会の構成員として男性と対等の資格を得たのでさえ1945年以降のことである。これは、法律上の男女の地位の違いを示す一例であるが、女性の役割・行動がいかに狭く不当かつ理不尽に制限されてきたかを物語るものである。女性あるいは社会的弱者一般に対する劣等性の強調と蔑視があり、それを基盤に社会的差別が作り出されてきたのである。

男女の対等・平等な関係にどのような中身を入れるかは、その社会のあり方と進歩の度合いによって変化するが、現状はまだ不十分であり追及していかなければならない重要な課題である。男尊女卑の人間観、社会的不平等の撤廃の動きは世界的なものである。第34回国連総会(1977)では、「女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約」が採択され、日本では1985年7月から発効している。例えば、その第5条では、「両性のいずれかの劣等性もしくは優越性の観念または男女の定型化された役割に基づく偏見および習慣その他のあらゆる慣行の撤廃を実現するため、男女の社会的および文化的な行動様式を修正すること」と規定されているのである(永井, 1987)。

絵本に描写される男性と女性の役割・行動に

は、はっきりとした定型的な特徴が認められ、この条約の言及する事柄と一致するところが多い。絵本が、作者の目を通して現実の社会を反映するものである以上、実生活における男性と女性の役割分担・地位・関係も多かれ少なかれ類似の状況にあると考えられるのである。依然として「男性優位」・「男中心」的な社会ではあるが、しかし、女性労働者の占める割合は増加の一途であるし、その職種も多様化しているのが現実である。また、男の子に限らず、女の子であれサッカーやラグビーといった激しい活動もやっているのである。徐々にではあるが、「伝統的」・「封建的」な男性観・女性観は崩れてきているのである。固定的、ステレオタイプな人間観にとらわれることなく、対等平等な男女の関係を視野に入れた、優れた絵本作品が製作され、幼児・児童に提供されることが望まれる。

付 記

本論文は、多賀城市立図書館、浦安市立図書館、墨田区立八広図書館、日野市立中央図書館、尼崎市立図書館の各図書館の御好意による資料に基づいて作成したものです。御多忙中にもかかわらず、貴重な資料を提供下さいましたことに厚く御礼申し上げます。

(1989年4月17日提出)

(1989年4月28日受理)

引用文献

- Arie's P. 1960. *Le'nfant et la vie familiale sous l'ancien regime*. (杉山光信・杉山恵美子訳, 1980<子供>の誕生—アンシャンレジーム期の子供と家族生活—みすず書房).
- 福富 護・斉藤美恵 1985. 小学校教科書における性役割の分析. 東京学芸大学紀要, 36, 59-69.
- 井原成男 1985. 子どもの発達と絵本—ぬいぐるみから絵本の世界へ—, 長野大学紀要, 6, 23-37.
- 日本子どもの本研究会 1983. 子どもの本と読書の事典, 岩崎書店.
- 永井憲一監修・国際教育法研究会編 1987. 教育条約集, 三省堂.
- 櫻本富雄・今野敏彦 1985. 紙芝居と戦争—銃後の

子どもたち—マルジュ社.

佐藤洋子 1980. 女の子はつくられる. 白石書店.

清水勲編 1986. ビゴ— 日本素描集, 岩波書店.

牛島義友・矢部信一 1943. 絵本の研究, 協同公社
出版部.

資料1 兒童讀物ニ關スル指示事項
(內務省警保局圖書課：昭和13年10月)
(牛島・矢部, 1943より)

編輯上ノ注意事項

- 一、教訓のタラズシテ教育的タルコト
- 一、年齢ニ依リシテ教化及用語ノ程度ヲ考慮スルコト

- (1) 五、六歳前後ノモノ
 - (イ) 繪ハ極メテ健全ナルモノタルコト
 - (ロ) 童話ハ題材ヲ自然ノ凡ユルモノニ求メテ、創造的ニシテ詩情豊カナルモノト特ニ母性愛ノ現ハレタルモノタルコト

十歳以上ノモノノ確立ニ資スルモノタルコト
 將來ノ人格ノ基礎ガ作ラレル最モ大切ナル時代ナルヲ以テ、敬神、忠孝、奉仕、正直、誠實、謙讓、勇氣、愛情等日本精神
 又生産ノ知識、科學知識(空想テ有ツテハナラナイ)ヲ興ヘルモノヲ取入ルルコト

- (2) 用語ハ年齢ニ從ツテ漢字ヲ用ヒ、教科書ノ範圍ヲ出デザルコト

- 一、編輯ノ單純化ヲ計ルコト例ヘバ活字ノ配合、色彩ノ單純化、記事面ト廣告面ノ區別等
- 一、掲載記事ニ對シテ比例制度ヲ確立スルコト漫畫、小説、記事等ノ割合
- 一、假作物語ヲ制限スルコト現在ノ半數以下ニ減ジ、且ツソノ物語中ノ假作時代小説ノ幾篇カラ少國民ノ生活ニ近イ物語又ハ日本國民史ヨリノ建

設のナル部分ニ取材セルモノト代ヘ又冒險小説ノ幾篇カラ探險譚、發見譚ノ如キモノニ代ヘルコトヲ考慮スルコト
 尙コノ減頁ニ依ツテ得タル頁ヲ左ノ如キ記事ニ充ツルコト

(イ) 科學的知識ニ關スルモノ從來自然科學ソノモノヲ誠實ニ興味深ク述ベタモノ以外ニ科學的知識ヲ啓發スル藝術作品ヲ取上グルコト(例
 ヘバ、爆彈、戰車、飛行機等ノ如キモノニシテモ、ソレ等ノモノノ持つ機能ヤ本質ニ觸レ得ルテーマノモトニ取扱フコト)

以上ノ他、地理、風俗等ニ關スルモノヲ取入ルルコト

(ロ) 歴史的知識ニ關スルモノ忠臣、孝子、節婦等ノ傳記モノハモトヨリ國民全體又ハ一ツノ集團ノ困難、奮闘、發展等ヲ叙シタルモノ、即
 チ國民史の記事ヲ取上グルコト

(ト) 古典ヲ平易ニ解説セルモノヲ取上グルコト但シ兒童ノ讀物ニ適スルモノタルコト
 一、漫畫ノ量ヲ減スルコト一特ニ長篇漫畫ヲ減スルコト

- 一、記事ハ可及的ニ専門家ヲ動員スルコト科學記事ハ科學者ニ、基礎的經濟思想(經濟知識ニ非ズ)ハ經濟學者、實業家ニ等
- 一、華美ナル消費面ノ偏重ヲ避け、生産面、文化ノ活躍面ヲ取入ルルコト

- 一、子供ノ質疑ヲ本格的ニ取扱ヒ生活化スル工夫ヲ計ルコト
- 一、幼年雜誌及ビ繪本ニ「母ノ頁」ヲ設ケ、「讀ませ方」「讀んだ後の指導法」等ヲ解説スルコト

一、事變記事ノ扱ヒ方ハ、單ニ戰爭爭談ノミナラズ、例ヘバ「支那ノ子供は如何なる遊びをするか」「支那の子供は如何なるおやつを喰べるか」等支
 那ノ子供ノ生活ニ關スルモノ又ハ支那ノ風物ニ關スルモノ等、子供ノ關心ノ對象トナルベキモノヲ取上ゲ、子供ニ支那ニ關スル知識ヲ興ヘ、以
 テ日支ノ提携ヲ積極的ニ強調スルヤウ取計ラフコト。

從ツテ皇軍ノ勇猛果敢ナルコトヲ強調スルノ餘リ、支那兵ヲ非常識ニ戲畫化シ、或ハ敵愾心ヲ唆ルノ餘リ支那人ヲ侮辱スル所謂「チャンコロ」等
 ニ類スル言葉ヲ使用スルコトハ一切排スルコト

一、挿畫漫畫ニハ責任者ノ名ヲ明記スルコト
 以上ハ子供雜誌ヲ基準トシテ立案セルモノナルガ、單行本、漫畫専門雜誌等ニ就テモ右ノ方針ニ準ジテ取扱フコト

資料2 分析の対象とした絵本100冊

No.	書名	著者・画家・訳者	出版社	発行年
(1)	おばけのパーババ	文・絵/アネット・チゾン, タラス・テイラー 訳/やましたはるお	借成社	1972
(2)	ぐりとぐら	文/なかがわりえこ 絵/おおむらゆりこ	福音館書店	1963
(3)	パーババたびにでる	文・絵/アネット・チゾン, タラス・テイラー 訳/やましたはるお	講談社	1975
(4)	パーババのいえさがし	文・絵/アネット・チゾン, タラス・テイラー 訳/やましたはるお	講談社	1975
(5)	11びきのねこ	文・絵/馬場のぼる	こぐま社	1967
(6)	11びきのねことおほうどり	文・絵/馬場のぼる	こぐま社	1972
(7)	うさこちゃんとどうぶつえん	文・絵/ディック・ブルーナ 訳/いしいももこ	福音館書店	1964
(8)	パーババのプレゼント	文・絵/アネット・チゾン, タラス・テイラー 訳/やましたはるお	講談社	1982
(9)	パーババのがっこう	文・絵/アネット・チゾン, タラス・テイラー 訳/やましたはるお	講談社	1976
(10)	ノントンおねしょでしょん	文・絵/おおともやすおみ・さちこ	借成社	1978
(11)	びんちゃんとふいーんちゃん	文・絵/ディック・ブルーナ 訳/いしいももこ	福音館書店	1968
(12)	ノントンはわはわわわ	文・絵/おおともやすおみ・さちこ	借成社	1977
(13)	だるまちゃんとうさぎちゃん	文・絵/加古里子	福音館書店	1972
(14)	うさこちゃんとうみ	文・絵/ディック・ブルーナ 訳/いしいももこ	福音館書店	1964
(15)	だるまちゃんとてんぐちゃん	文・絵/加古里子	福音館書店	1967
(16)	くんくんとかじ	文・絵/ディック・ブルーナ 訳/まつおかきょうこ	福音館書店	1972
(17)	さーかす	文・絵/ディック・ブルーナ 訳/いしいももこ	福音館書店	1964
(18)	こいぬのくんくん	文・絵/ディック・ブルーナ 訳/まつおかきょうこ	福音館書店	1972
(19)	じのないえほん	文・絵/ディック・ブルーナ	福音館書店	1968
(20)	きいろいことり	文・絵/ディック・ブルーナ 訳/いしいももこ	福音館書店	1964
(21)	ねないこだれだ	文・絵/せなけいこ	福音館書店	1969
(22)	パーババのだいサーカス	文・絵/アネット・チゾン, タラス・テイラー 訳/やましたはるお	講談社	1979
(23)	もっとほんがよめるの	文・絵/ディック・ブルーナ 訳/まつおかきょうこ	福音館書店	1972
(24)	ぐりとぐらのおきゃくさま	文/なかがわりえこ 絵/やまわきゆりこ	福音館書店	1966
(25)	わたしほんがよめるの	文・絵/ディック・ブルーナ 訳/まつおかきょうこ	福音館書店	1972
(26)	ちいさなうさこちゃん	文・絵/ディック・ブルーナ 訳/いしいももこ	福音館書店	1964
(27)	パーババのたんじょうび	文・絵/アネット・チゾン, タラス・テイラー 訳/やましたはるお	講談社	1977
(28)	パーババのはこぶね	文・絵/アネット・チゾン, タラス・テイラー 訳/やましたはるお	講談社	1976
(29)	パーババのふうせんりょうこ	文・絵/アネット・チゾン, タラス・テイラー 訳/やましたはるお	講談社	1977
(30)	パーバズーとまいごのたまご	文・絵/アネット・チゾン, タラス・テイラー 訳/やましたはるお	講談社	1977
(31)	11びきのねことぶた	文・絵/馬場のぼる	こぐま社	1976
(32)	パーバベルのレースあみ	文・絵/アネット・チゾン, タラス・テイラー 訳/やましたはるお	講談社	1979
(33)	いやだいやだ	文・絵/せなけいこ	福音館書店	1969
(34)	ノントンおよぐのだいすき	文・絵/おおともやすおみ・さちこ	借成社	1977
(35)	ぐりとぐらのかいすいよく	文/なかがわりえこ 絵/やまわきゆりこ	福音館書店	1976
(36)	ノントンボールまてまてまて	文・絵/おおともやすおみ・さちこ	借成社	1977
(37)	ようちえん	文・絵/ディック・ブルーナ 訳/いしいももこ	福音館書店	1968
(38)	ちびくろ・さんぼ	文/へれん・ばんなーまん	岩波書店	1953
(39)	ノントンあわぶくぶくぶ	文・絵/おおともやすおみ・さちこ	借成社	1980
(40)	ふしぎなたまご	文・絵/ディック・ブルーナ 訳/いしいももこ	福音館書店	1964
(41)	こぐまちゃんのみずあそび	文・絵/わかやまけん	こぐま社	1971
(42)	うさちゃんがかっこうへいく	文・絵/ディック・ブルーナ 訳/まつおかきょうこ	福音館書店	1985
(43)	アンパンマンとナンカヘンダー	文・絵/やなせたかし	フレーベル館	1984

No.	書名	著者・画家・訳者	出版社	発行年
44	ピーターラビットのおはなし	文・絵/ビアトリクス・ポター 訳/いしいももこ	福音館書店	1971
45	ノントンおやすみなさい	文・絵/おおともやすおみ・さちこ	偕成社	1976
46	あーんあん	文・絵/せなけいこ	福音館書店	1972
47	アンパンマンとまいごのうちゅうじん	文・絵/やなせたかし	フレーベル館	1983
48	こぐまちゃんとどうぶつえん	文・絵/わかやまけん	こぐま社	1970
49	アンパンマンのサンタクロース	文・絵/やなせたかし	フレーベル館	1980
50	パーパビカリのとけいやさん	文・絵/アネット・チゾン, タラス・テイラー 訳/やましたはるお	講談社	1985
51	ちいさなさかな	文・絵/ディック・ブルーナ 訳/いしいももこ	福音館書店	1964
52	こわいわるいうさぎのおはなし	文・絵/ビアトリクス・ポター 訳/いしいももこ	福音館書店	1971
53	こぐまちゃんとぼーる	文・絵/わかやまけん	こぐま社	1970
54	こぐまちゃんのどろあそび	文・絵/わかやまけん	こぐま社	1973
55	こねこのトムのおはなし	文・絵/ビアトリクス・ポター 訳/いしいももこ	福音館書店	1971
56	しろくまちゃんのほっとけーき	文・絵/わかやまけん	こぐま社	1972
57	ゆきのひのうさこちゃん	文・絵/ディック・ブルーナ 訳/いしいももこ	福音館書店	1964
58	フロプシーのこどもたち	文・絵/ビアトリクス・ポター 訳/いしいももこ	福音館書店	1971
59	アンパンマンとらくがきごろう	文・絵/やなせたかし	フレーベル館	1983
60	こぐまちゃんいたいいたい	文・絵/わかやまけん	こぐま社	1971
61	2ひきのわるいねずみのおはなし	文・絵/ビアトリクス・ポター 訳/いしいももこ	福音館書店	1972
62	パーパママのかわいこうし	文・絵/アネット・チゾン, タラス・テイラー 訳/やましたはるお	講談社	1977
63	パーパババのおんがくかい	文・絵/アネット・チゾン, タラス・テイラー 訳/やましたはるお	講談社	1976
64	おふろだいすき	文/まつおかきょうこ 絵/はやしあきこ	福音館書店	1982
65	もじゃもじゃ	文・絵/せなけいこ	福音館書店	1969
66	こねこのねる	文・絵/ディック・ブルーナ 訳/いしいももこ	福音館書店	1968
67	こぐまちゃんおはよう	文・絵/わかやまけん	こぐま社	1970
68	だるまちゃんとかみなりちゃん	文・絵/加古里子	福音館書店	1968
69	ノントンサンタクロースだよ	文・絵/おおともやすおみ・さちこ	偕成社	1978
70	のねずチュウチュウおくさんのおはなし	文・絵/ビアトリクス・ポター 訳/いしいももこ	福音館書店	1972
71	はらべこおあむし	文・絵/エリック・カール 訳/もりひさし	偕成社	1976
72	モベットちゃんのおはなし	文・絵/ビアトリクス・ポター 訳/いしいももこ	福音館書店	1971
73	うさこちゃんのたんじょうび	文・絵/ディック・ブルーナ 訳/いしいももこ	福音館書店	1982
74	タンタンのぼうし	文・絵/いわむらかずお	偕成社	1978
75	ぐりとぐらのえんそく	文/なががわりえこ 訳/やまわきゆりこ	福音館書店	1979
76	わたしのワンピース	文・絵/にしまきかやこ	こぐま社	1969
77	あかんペノントン	文・絵/おおともやすおみ・さちこ	偕成社	1976
78	ベンジャミンバニーのおはなし	文・絵/ビアトリクス・ポター 訳/いしいももこ	福音館書店	1971
79	11ひきのねこふくろのなか	文・絵/馬場のぼる	こぐま社	1982
80	タンタンのずぼん	文・絵/いわむらかずお	偕成社	1976
81	のろまなローラー	文/小出正吾 絵/山本忠敬	福音館書店	1965
82	パーパババのしんじゅとり	文・絵/アネット・チゾン, タラス・テイラー 訳/やましたはるお	講談社	1985
83	りすのナトキンのおはなし	文・絵/ビアトリクス・ポター 訳/いしいももこ	福音館書店	1973
84	ひとまねこざる	文・絵/H・A・レイ 訳/光吉夏弥	岩波書店	1954
85	3ひきのくま	文/トルストイ 絵/バスネツォフ 訳/おがさわらとよき	福音館書店	1962
86	ノントンぶらんこのせて	文・絵/おおともやすおみ・さちこ	偕成社	1976

No.	書名	著者・画家・訳者	出版社	発行年
87	たろうのおでかけ	文/村山桂子 絵/堀内誠一	福音館書店	1963
88	おおきなかぶ	再話/内田莉紗子 絵/佐藤忠良	福音館書店	1962
89	パーパパパのみたいじ	文・絵/アネット・チゾン, タラス・テイラー 訳/やましたはるお	講談社	1977
90	「ジンジャーとピクルスや」のおはなし	文・絵/ビアトリクス・ポター 訳/いしいももこ	福音館書店	1973
91	こぐまちゃんとふうせん	文・絵/わかやまけん	こぐま社	1972
92	こぐまちゃんのうんてんしゅ	文・絵/わかやまけん	こぐま社	1971
93	はじめてのおつかい	文/筒井頼子 絵/林 明子	福音館書店	1976
94	おおきなおおきなおいも	文・絵/赤羽末吉	福音館書店	1972
95	あかいりんご	文・絵/なかのひろたか	福音館書店	1971
96	たろうのひっこし	文/村山桂子 絵/堀内誠一	福音館書店	1983
97	パーパモジャのつぼつくり	文・絵/アネット・チゾン, タラス・テイラー 訳/やましたはるお	講談社	1979
98	パーパリブほんをつくる	文・絵/アネット・チゾン, タラス・テイラー 訳/やましたはるお	講談社	1979
99	とらっくとらっくとらっく	文/渡辺茂男 絵/山本忠敬	福音館書店	1961
(100)	すてきな三にんぐみ	文・絵/トミー・アングラー 訳/いまえよしもと	偕成社	1969

A Study on Sex Roles in Picture Books

Tomohide, BANZAI Hiroko, OSAWA

We hypothesized that picture books reflect authors' attitude and values common in our society. In order to test this hypothesis, we examined one hundred books. In 1987, among 5 libraries examined, these books were the most popular among children. We analysed the contents of these books, focusing on the sex roles assigned to characters.

In general, both male and female characters were frequently assigned traditional sex roles, or had male-centric interpersonal relationships. The main results are as follows.

- 1) Most frequently, the characters are animals which act like persons.
- 2) Most of the leading characters are male.
- 3) Most male adults are workers, and most female adults are housewives.
- 4) In all the scenes, boys are playing outdoors. Though in some scenes girls are playing outdoors, in other scenes they are playing with dolls in rooms.
- 5) Generally, males use rough language, but females use polite language.

we consider that the books clearly reflect the authors' attitudes and values towards sex roles, and discussed the way this could encourage sex discrimination.